

## 開倫研究所 教育相談室の活動について①

開倫塾

塾長 林 明夫

林塾長：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

お陰様で、「開倫塾の時間」はこの3月で28年目に入りました。毎回お聴きいただき、ありがとうございます。開倫塾の中には開倫研究所があり、その中に教育相談室があります。今朝は、その教育相談室の室長をさせていただいている岡田忠治先生と、開倫研究所の事務局長の高尾初江先生をゲストとしてお招きしてお話を伺います。では、岡田先生と高尾先生、よろしく願いいたします。

岡田先生・高尾先生：よろしく願いいたします。

林塾長：最初に、開倫研究所についてお話をさせていただきます。高尾先生、開倫研究所ではどのような活動をしているのですか。概要をお話いただければと思います。

高尾先生：研究所では2001年に教育相談室を開設しました。教育相談室は足利市、栃木県などいろいろなところがありますが、多くの悩みを抱えている塾生と保護者の皆さんの悩みを解決したいということで始めました。相談の内容は、学校でのいじめの問題・部活動の問題・不登校の問題・先生方へのいろいろな不満、また、家庭内暴力のこと・親子の対話のことなどです。つまり、塾生の心身的な問題を広くケアをしたいということで始めたものです。ただ、ここにきて一番多い相談は、いじめの問題とそれに伴った不登校の問題です。加えて、それが続くことによって心身に影響が出てきてリストカットや自殺まで考えたという相談もありました。最近ではスマホに関する問題も増えてきましたし、年々低学年化もしています。また、高校生もかなりの悩みがあることがわかってきました。このような問題を中心にカウンセリングをしているというのが現状です。

林塾長：ありがとうございました。お陰様で、開倫塾では7000名近くの塾生の皆さんが学んでいますが、その中にも今のような問題で悩んでいる方がいらっしゃいます。また、地域の方の中にもお困りの方がいらっしゃいますので、高尾初江事務局長と岡田忠治室長を中心に教育相談をさせていただいております。今のお話の内容は、開倫塾の塾生の皆さんはもちろん、地域社会の皆さんも対象としていますので、そのようなつもりでお話を聴いていただければと思います。

次は、岡田忠治先生からお話を伺いたいと思います。岡田先生には10年以上も教育相談室で活躍していただいておりますが、最近の相談内容としてはどのようなものがありますか。

岡田先生：最近は、不登校がらみの相談が多いです。その原因はいろいろあります。いじめの問題や学校の先生の対応のまずさ、今問題になっている先生の暴力によって子どもが先生に対して恐怖心を持ってしまい学校に行けなくなってしまった、そのような相談が非常に多いです。

林塾長：具体的には、開倫塾の生徒さんが相談に来る場合も、地域の方が相談に来る場合もありますね。開倫塾では、各校舎の校長先生が相談を受けさせていただきますが、難しい場合は高尾先生や岡田先生には連絡をしてお二人に相談の業務にあたっただいています。岡田先生には足利市の山辺中学校で私のクラス担任をしていただき、その御縁で開倫塾に来ていただくことになりました。今の中学生とその当時の中学生には違いがありますか。

岡田先生：本質的なところはそんなに変わっていないと思います。しかし、いろいろな行動では随分と変わってきています。林塾長が在籍していたころにも結構大変な子どもたちがいました。ただ、大変でしたが、問題が表面に素直に出てきました。例えば、いじめの問題もはっきりと見える形のいじめが多かったんですよ。ですから、割合簡単に発見できました。ところが、今の子どもたちはインターネットを通すなどしてあまり表面に出ない陰湿な形で行います。そのため、非常に難しい対応をしなければならない部分があると思います。今の子どもたちも本質的には子どもらしいものを持っていますが、世の中の影響を受けているがゆえの難しさを感じますね。

林塾長：相談を受ける場合は、高尾先生はどのような形でお受けになるのですか。

高尾先生：外部からの教育相談室直通の電話から受ける場合と、各校舎の担当の先生から受ける場合があります。通常は毎週木曜日に相談を受け付けていますが、至急の場合や急を要する場合にはこちらから出向いたり、他の場所で会ったりするなどいくつかのやり方があります。

林塾長：そうしますと、高尾先生と岡田先生のお二人が相談をしたい方の所に出向いて、ご本人または保護者の方から相談を受け、時には学校にまで出掛けて行っているいろいろな相談に乗っただいているのですね。

今日は、開倫塾の附属機関の開倫研究所内にある教育相談室 室長の岡田忠治先生と事務局の高尾初江先生から、教育相談についてのお話を伺いました。詳しい話がたくさんありますので、来週にまたお話をお聞きしたいと思います。先生方、よろしく願いいたします。皆様も心の中に問題を抱え込まないで、いろいろな教育相談を活用していただければと思います。